

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

南海トラフ地震

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

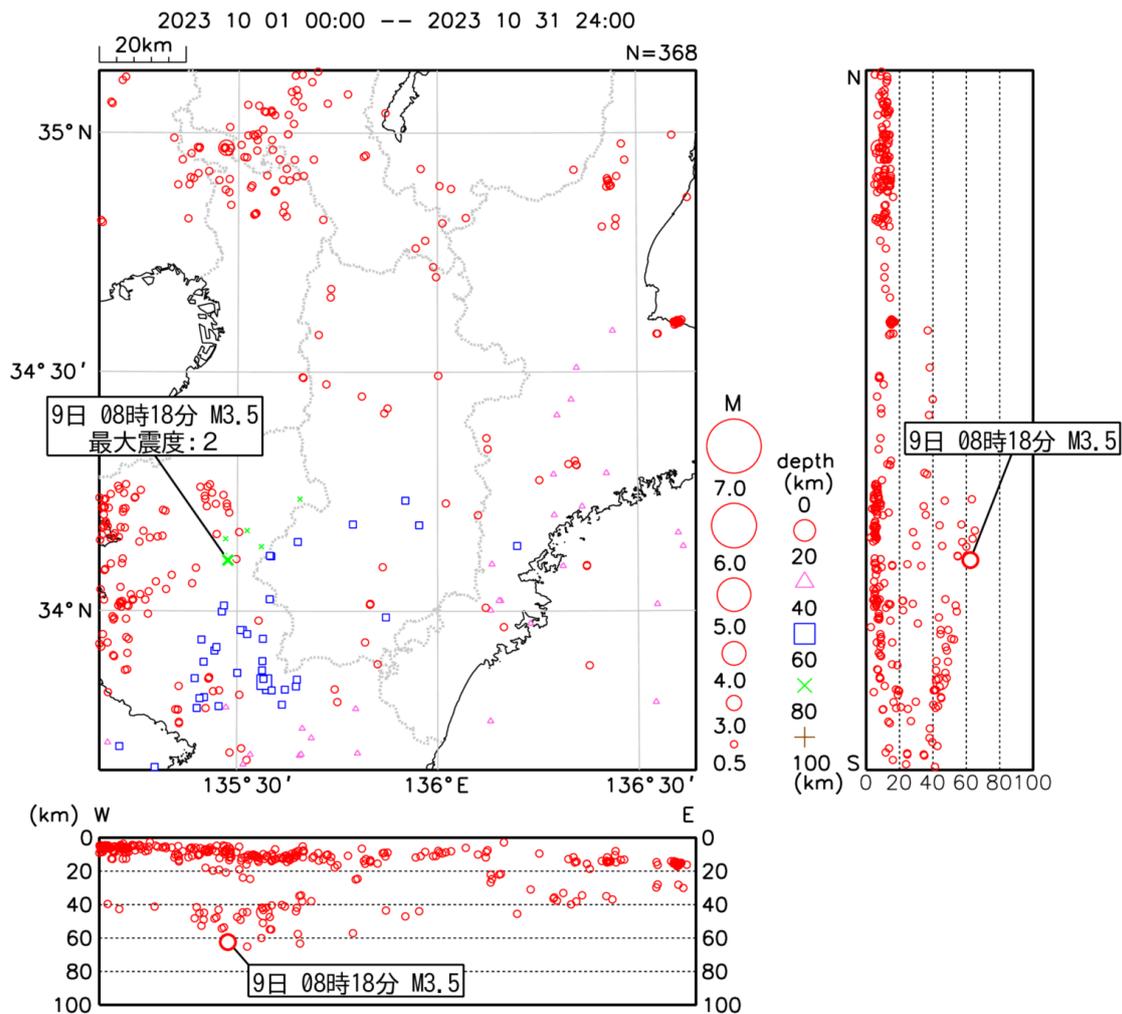
奈良地方気象台

2023年10月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

9日08時18分 和歌山県北部の地震(深さ62km、M3.5)により、奈良県内では御所市で震度1を観測しました。

23日13時49分 岐阜県美濃中西部の地震(深さ40km、M3.8: 地図範囲外)により、奈良県内では桜井市、山添村で震度1を観測しました。

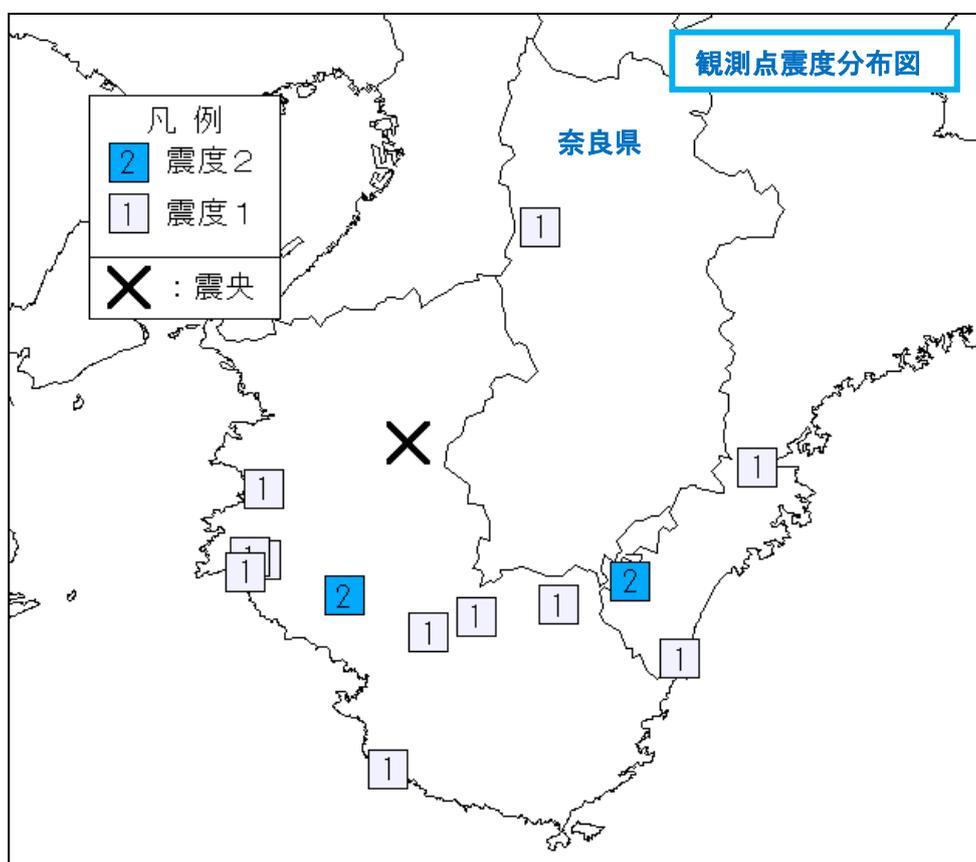
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度(奈良県内のみ記載)					
2023年10月09日08時18分	和歌山県北部	34° 06.3' N	135° 28.6' E	62km	M3.5
震度 1 : 御所市役所*					
2023年10月23日13時49分	岐阜県美濃中西部	35° 13.7' N	136° 38.8' E	40km	M3.8
震度 1 : 桜井市初瀬, 山添村大西*					

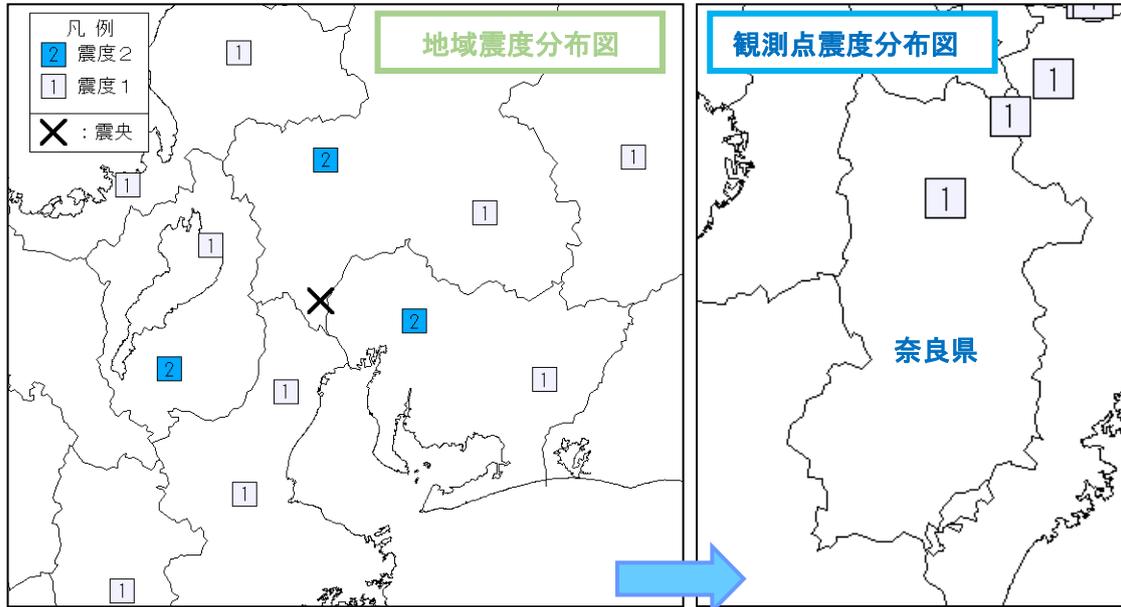
* 印は地方公共団体等の震度観測点です。

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

2023年10月09日08時18分	和歌山県北部	34° 06.3' N	135° 28.6' E	62km	M3.5
-------------------	--------	-------------	--------------	------	------



2023年10月23日13時49分 岐阜県美濃中西部 35° 13.7' N 136° 38.8' E 40km M3.8



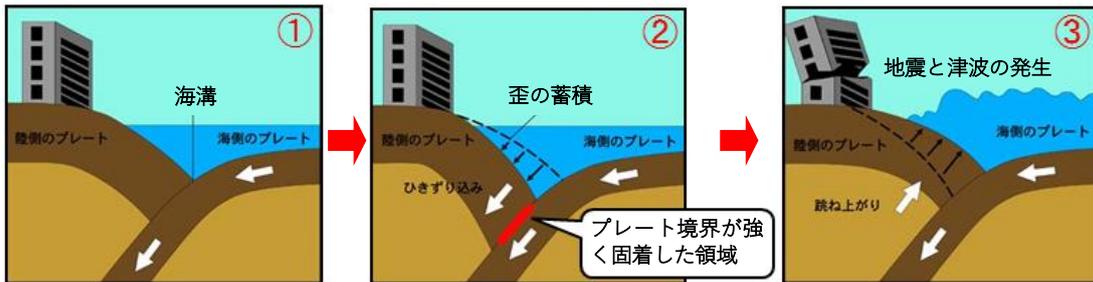
奈良県付近を拡大

【地震一口メモ】

～南海トラフ地震～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけての南海トラフを震源域として、過去に大きな被害をもたらしてきた巨大地震です。南海トラフ地震が発生すると奈良県では激しい揺れに襲われて大きな被害が出るのが想定されています。

南海トラフでは、陸側のプレートの下に海側のプレートが沈み込み、プレートの境界が強く固着しているため陸側のプレートも引きずり込まれます。それが続き、陸地のプレートが引きずり込みに耐え切れなくなった際に跳ね上がることで発生する地震が南海トラフ地震です。このプレートの沈み込みと跳ね上がりが繰り返されるため、南海トラフ地震は約100年から150年の間隔で繰り返し発生しています。



南海トラフ地震は、1707年の宝永地震のように一度に想定震源域のほとんどの地域で地震が起こる場合もあれば、1854年の安政の東海地震や南海地震、1944年、1946年の昭和の東南海地震、南海地震のように隣接する地域で連動する場合があります。更に隣接地域が連動する時間も安政の時は32時間、昭和の時は2年後と連動する時間は様々で、南海トラフ地震は多様性のある地震と言われています。

最後に起こった昭和の南海地震から75年以上が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきていると考えられています。地震調査推進研究本部では、マグニチュード8～9クラスの地震が今後30年以内に70%～80%の確率で発生すると評価しています。いつ南海トラフ地震が発生しても自分の命はもちろん、大切な人の命を守るために、日頃から地震への備えをしておきましょう。

地震の発生に備えよう

- 家具の固定
- 非常用持ち出し袋の準備
- 水や食料の備蓄
- 避難場所や避難経路の確認
- 感震ブレーカーの設置
- 建物の耐震化

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去の分も掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

